Muli Buti? ムリブティ?
Zambia からこんにちは!



JICA 海外協力隊　髙﨑夏帆
令和８年　No.4

ザンビアの学校とは？どんな感じ？

Muli buti? こんにちは!

配属先である Tagore Primary School で働き始めてもうすぐ２ヶ月になります。



今回は Tagore Primary School についてお伝えしていきたいと思います。私は、3 年生のクラスで算数と CTS(Creativity and Technology Studies…技能教科)を教えています。算数の授業は毎日あり、CTS は週に 2 回あります。学校の様子は先生も生徒も活気があり賑やかな様子です。一方で、教科書を持っている生徒はほとんどおらず、先生が板書したことをノートに写すスタイルをとっています。テストも問題・解答用紙を渡せる程の設備(PC や印刷機、大量の紙)が整っていないため、先生が黒板に問題を書き、その答えをそれぞれのノートに書き、提出させるスタイルをとっているようです。教室には電気は来ていません。曇りの日は、なかなかの暗さです。しかし、そんな環境下でも授業をしている先生方は凄いなとつくづく思います。最初は戸惑いましたが、最近では、時計の読み方を授業で教えています。日本の教室には必ず時計があり、時計を中心に活動することが多いと思います。しかし、ザンビアに来て約 3 ヶ月、1 度も機能しているアナログ時計を見たことがありません。児童達に、アナログ時計が家にあるかたずねても無い家が多いようで、時計の読み方を教えることにとても苦労しています。さらに、デジタル時計が主流で、かつ AM、PM を使わず 24 時間式で時計を表記することが多く、児童にとって 3:00 と 15:00 を読み分け、何分かを読むとなるとなかなか難しいようです。少しでもわかりやすくするため、いらなくなった裏紙を使ってアナログ時計を作り、毎日特訓しているところです。

このように、日本の学校で当たり前だったこと(時間を守ることや行事があること)や、当たり前にあった物たち(文房具や教科書)がここにはありません。無いなら無いなりに進めていくことも必要です。国際協力としての考えは、現場にある物を用いて、支援がなくとも現地の人たちでできることを一緒に考えて行くことです。しかし、日本の学校で働いていた私としては、「ハサミや画用紙を使ってアナログ時計を作らせたい。もっと様々な体験をさせてあげたい」と思うことも多くあります。悩ましい限りです。とはいえ、児童たちは元気いっぱい。時に、授業中におしゃべりをしすぎて先生に叱られ、木の棒で叩かれるなんてことも、、、。これもとても衝撃でした。私は「叩きたくないし、対話をして行きたい。だからよく話しを聞くんだよ。」と言っております。まだまだ慣れないことばかりですが、ゆるりとこちらの暮らし、こちらの学校生活に慣れていこうと思います。では、**Tlabonana トゥラボナナ (See you!)**

